

平成25年度 租税教育に関する研究発表要項

岩沼市立岩沼西小学校

教諭 管野 千里

1. 研究主題

税金の役割と必要性を理解できる児童を育成するための指導の工夫
～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～

2. 主題設定の理由

私たちの生活は、教育、福祉、消防、警察などの公共サービスや、道路や橋の整備などの公共事業によって支えられている。私たちの生活に欠くことができないこれらの公共サービスや公共事業の費用のほとんどが税金で賄われている。また、近年、東日本大震災からの被災地復興のための復興増税や、消費税増税の話題が新聞やテレビなどのマスコミでも取り上げられることも多い。このような時期に、児童に、税に対する正しい理解と関心をもたせていくことは大切なことだと考える。

小学校学習指導要領社会科では、第6学年の目標（2）に「日常生活における政治の働きと我が国の政治の考えを理解できるようにすること」が挙げられており、内容（2）ア「国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること。」イ「日本国憲法は、国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていること。」とある。アについては、「政治の働きと税金の使われ方の関係について取り上げ租税の役割を理解できるようにすること」「租税の役割については、国や県、市によって行われている社会保障、災害復旧の取組、地域の開発などに必要な費用は租税によってまかなわれていること、それらは国民によって納められていることなどを理解し、租税が大切な役割を果たしていることを考えることができるようにする。」、イについては、「国民の義務については、納税の義務を取り上げ、税金が国民生活の向上と安定に使われていることを理解できるようにする必要がある。」とある。このことから、6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して、児童に税金の役割と必要性を理解させていきたいと考えた。

本校6学年2組の児童は、日常生活で「税金」という言葉は知っていても、それがどのような目的で、どのように集められているのかということについては理解していない。また、税金は「いやなもの」「高くて困るもの」というネガティブなイメージしか持っていない児童も多い。以上のことから、児童に、税についての正しい知識と、税金が私たちの生活に役立っているという実感をもたせることで、税についての興味・関心を高め、理解を深めていけると考え、本主題を設定した。

3. 研究目標

税金の役割と必要性を理解できる児童を育成する指導の在り方を探る。

4. 研究方法

- (1) 児童の税に対する意識の事前調査を行い、実態を把握する。
- (2) 公共施設の意義や役割について考えさせる。
- (3) 租税教室で税の意義や役割などを理解させる。
- (4) 「学校」における税の関わり方について調べて、税金の必要性を考えさせる。
- (5) 個人ごとに課題を設定し、「税金新聞」にまとめる。
- (6) 児童の変容を見るため、事後調査を行う。

5. 研究計画

平成24年度	9月	事前調査
	12月～1月	実践授業 租税教室
	2月	事後調査 研究のまとめ

6. 研究の概要

- (1) 児童の実態の事前調査（岩沼西小学校6年2組 男16名 女18名 計34名）

1. 税金という言葉を知ったことがありますか。	ある（33名） ない（1名）
2. 税金にはどんなものがありますか。	わからない（10名） 消費税（23名） 関税（4名） 所得税（1名） 土地にかかる税（1名） 高速道路料金（1名）
3. 税金はどんなことに使われていますか。 (複数回答可)	わからない（12名） 教科書（7名） 政治のこと（2名） 国のためになること（2名） 道路などを作る・直す（2名）

	学校などの建物（2名） 年金（1名） お年寄りの生活のため（1名） 被災地復興（1名） 環境（1名） 生活保護（1名） 電気代（1名） 総理大臣の給料（1名）
4. 税金はだれが払っていますか。 (複数回答可)	分からない（8名） お父さん・お母さん（9名） 自分たち国民みんな（12名） 大人（3名） 国（1名） 募金（1名）
5. 税金は必要だと思いますか。	必要だと思う（13名） ・災害が起こった時に必要になると思う（1名） ・払うのは大変だけど、国のために必要（4名） ・暮らしが豊かになるから（3名） ・お金がなくて困っている人のために必要（1名）
	必要だと思わない（7名） ・税金が上がったり、下がったりすると大変だから（1名） ・物の値段が上がって商品が売れなくなるから（1名） ・無駄に使われる（1名） ・どんなことに使われているのか分からないから（1名） ・物の値段が上がるから（2名） ・税金が高くて暮らせない人たちが出るから（1名）
	わからない（14名）
6. 税金は生活に役立っていると思いますか。	思う（10名） 思わない（11名） わからない（13名）

【考察】

ほぼ全員の子どもが「税金」という言葉は聞いたことがあるものの、それがどんな目的で使われているのか、またどのような方法で集められているのかということに関して正しく知っている児童はほとんどいなかった。税金の種類に関しては、自分の生活経験から「消費税」の認識が高く、歴史の学習で出てきた「関税」を挙げた児童も

4名いた。税金の使い道についても、自分たちが使っている「教科書」を挙げた児童が7名と一番多く、次いで国のこと、政治のこと、学校などの建物、と続いた。このことから、児童たちにとって身近な事柄と、税金との関わりを取り上げることで、税金の学習に興味・関心を抱いていくであろうと考える。

また、ほとんどの項目に「わからない」と書いている児童も半数いるため、税金の種類や使い道について正しく理解することで、税金の必要性などについても、考えを深めていくことができると考える。

(2) 指導計画 (8時間扱い)

段階	主な学習活動	時間
事前調査		朝の活動
【第1次】 身近な税金について知ろう	公共施設を調べて、税の大切さに気づき、学習課題を設定する。	1
	租税教室で税について詳しく理解する。	1
	学校の中で、どんなことに税金が使われているか調べ、税金の必要性について考える。	1
【第2次】 税金について調べよう	税についてさらに詳しく調べたいと思ったことについて、課題を設定し、新聞にまとめる。	4
【第3次】 調べたことを伝えよう	調べたことを発表する。	1
事後調査		朝の活動

(3) 実践の概要

【第1次】公共施設を調べて、税の大切さに気づき、学習課題を設定する。(1時間)

〈ねらい〉

- ・私たちの生活をよりよいものにするために公共施設があり、そのために税金が使われていることを知る。
- ・税金についての関心を高める。

〈内容〉

- ① 教科書のまちの写真を見ながら、どんな施設があるか話し合う。
- ② まちでくらしている人々がもっている願いについて考える。
- ③ 人々の願いは、どのように実現されているのか話し合う。
- ④ 「税金」という言葉を知り、学習課題を設定する。

〈児童の様子〉

まちの施設については、自分たちが住んでいる地域の様子も思い浮かべながら、学校や警察署、市役所、駅、陸上競技場などが出された。それらの施設はどんな人たちが利用しているかを確認した後、まちでくらしている人々がもっている願いについて話し合わせた。児童からは「大きな病院がほしい。」「遊具がたくさんある公園が欲しい。」「子どもから大人まで楽しめるような施設があったらいい。」「安全に生活を送りたい。」など、様々な意見が出された。

「人々の願いを実現させるためには、何が必要か」という問いには、一番に「お金が必要。」という意見が出た。そこで、教科書を見て、公共施設の建設や運営にかかるお金には、税金や国や県から受ける補助金、市が借りるお金（市債など）などあることを確認した。「税金」という言葉の意味を簡単におさえた後、次時で税理士さんをゲストティーチャーとして呼ぶことを児童に伝え、税金についてさらに詳しく調べていこうという学習課題を立てた。

【第1次】租税教室（1時間）

〈ねらい〉

- ・税についての興味・関心がもてるようにする。
- ・税金の必要性が理解できるようにする。

〈内容〉

- ⑤ ビデオ「マリンとヤマトの不思議な日曜日」視聴
- ⑥ 消費税について
- ⑦ 税金の種類について
- ⑧ 税金の使われ方について

〈児童の様子〉

税理士事務所の柳谷さんに来ていただき、お話をしていただいた。ビデオは、税金がなくなると生活がととても不便になるという内容で、児童はとても興味深く見入っていた。その後、税金の種類や使われ方についての説明も、真剣に話を聞き、質問なども多く出ていた。前時に、公共施設について学習した後だったので、詳しい説明を聞いて、より理解が深まったようだ。

～児童の感想から～

- ・私は今まで、あまり税のことを気にしたことがありませんでしたが、今日、詳しく分かりやすく教えてくださったので、税金の大切さやどのように使われているのかが、よく分かりました。
- ・税金は悪いイメージがあつて、値段などが高くなったりして困ると思ってい

ましたが、ちゃんとみんなのために使われていて必要なものだと分かりました。

- ・税金の種類などについて、分かりやすくプリントをもらったり、プロの方のお話を聞いたりできて、いろいろなことが勉強になりました。
- ・税が身近なところでいろいろなことに使われていることが分かりました。説明も分かりやすかったです。
- ・税金で作られているものがたくさんあることが分かりました。税務署の方にお話を聞いて、いろいろなことを知ることができたので、もっと税金のことについて詳しく知りたいと思いました。これからも、税金のことを知って、いろいろな人に広めていくことが大切だと思いました。

【第1次】学校の中で、どんなことに税金が使われているか調べ、税金の必要性について考える。(1時間)

〈ねらい〉

- ・身近なところでの税についての興味・関心がもてるようにする。
- ・税金の必要性について理解を深める。

〈内容〉

- ① 学校の中のどんな物に税金が使われているか考える。(校舎、イス、机、など)
- ② 新しく建てられた集会室の建設には、どのくらいの費用がかかっているのかについて調べる。
- ③ 施設・設備以外に、どんなことに税金が使われているか調べる。(水道・光熱費)
- ④ 学習したことから考えたことや、もっと調べてみたいと思ったことを発表し合う。

〈児童の様子〉

学校内の施設・設備でどんな物に税金が使われているか考える活動では、校舎、机、イスなどの他にも、ボール、教科書、テレビ、ほうき、給食のワゴンなどたくさんの物が挙げた。

校舎の建設費用については、昨年度新しくできたばかりの集会室を取り上げた。一人一人予想を立てた後、教育委員会からの回答を確認した。予想よりも多くのお金がかかっていることや、建築工事費の他に、電気関係の費用や、備品などにもお金がかかることが分かった。また、集会室の建設に関する費用は、すべて市費から出されていることに気付いた児童もいた。

学校の光熱費については、事務室の平間先生に教えていただいた。電気・水

道・ガスの使用量を月ごとにグラフ化して、資料を提示してもらったため、児童も興味をもって調べていた。資料を見て気付いたことを話し合わせると、電気やガスの使用量が冬になると挙がっていることや、使用量が極端に下がっているのは夏休み期間中だということ、夏場はプールにかかる水道料などもあることなどが出されていた。また、児童一人一人が直接その額を負担することになったとすると、一人あたりいくらかかるかということも計算してみた。

以上のような活動の後、児童からは、「学校の建設費や光熱費には大きなお金がかかっているのだから、税金があつてよかったと思う。」という意見や、「学校の物や水道代などは、みんなの税金で払われているのだから、大切に使おうと思った。」などの意見が出された。

【第2次】税についてさらに詳しく調べたいと思ったことについて、課題を設定し、新聞にまとめる。(4時間)

〈ねらい〉

- ・さらに深く知りたいと思ったことについて調べ、まとめる活動を通して税についての理解を深める。

〈内容〉

- ① もっと詳しく知りたい・調べたいと思ったことについて課題を設定する。
- ② 国税庁のホームページの子供向けコーナーを見て、自分の課題について調べ学習を進める。
- ③ 図書室の本や、租税教室でもらった資料、インターネットなども使って調べ学習を進める。
- ④ 調べたことを新聞の形式にまとめる。

〈児童の様子〉

課題を設定する際に、それぞれ自分が考えた課題を発表し合ったり、教師が紹介したりして、「税金の種類、税金の使われ方、世界の税金、税金の歴史」など、様々な視点を提示した。そのため、一人一人の児童の興味関心に合ったテーマを選んで、調べ学習に入ることができた。

国税庁のホームページは、児童にも親しみやすく、税金に関するゲームなどを通して学べるコーナーもあったため、どの子も楽しみながら調べ学習を進めることができていた。また、関心が高い児童は、他のページも調べて、他の角度からも税金について知ろうとする姿が見られた。ただし、インターネットの中には児童にとっては難しい内容のものも多数あるため、ページの選択が難しかった。

その後、図書室の本や、租税教室でもらった資料なども使って調べ学習を進め、新聞の形式にまとめる作業に入った。家族や友達に「税金は必要だと思いますか。」

「どんなことに税金を使ってほしいと思いますか。」など、インタビューをして、記事に取り入れている児童もいた。これまでに国語や社会、総合などの時間に、新聞にまとめる活動は何度も経験してきているので、個人によって差はあるものの、見出しやレイアウトなどを工夫して、分かりやすくまとめることができた。

【第3次】調べたことを発表する。(1時間)

〈ねらい〉

- ・調べたことを発表して、情報を共有する。

〈内容〉

- ① グループ毎に調べてきたことを発表し合う。
- ② お互いに質問し合ったり、感想を交流する。

〈児童の様子〉

グループ内で発表し合った。「税金の種類」や「税金の使われ方」についてイラスト入りでまとめた児童も多く、お互いにどのようにまとめたのか興味をもって聞き合っていた。また、世界の国々の消費税と日本の消費税の違いに着目した児童の発表を聞いて、消費税率の違いに驚く姿も見られた。それぞれ、自分が調べていない内容について興味深く発表を聞いたり、質問をしたりする姿が見られ、情報の共有をすることができた。また、自分が調べてきたことが、新聞という一つの形で完成したことや、自分の課題が解決したことに成就感を味わうことができていた。完成した新聞は、教室背面の掲示板上に掲示し、学級全体でも情報を共有できるようにした。

(4) 児童の実態の事後調査 (岩沼西小学校6年2組 男16名 女18名 計34名)

1. 税金という言葉を知ったことがありますか。	ある (34名) ない (0名)
2. 税金にはどんなものがありますか。	消費税 (33名) たばこ税 (28名) 酒税 (14名) 所得税 (14名) 関税 (14名) 固定資産税 (8名) 自動車税 (重量税) (8名) 法人税 (3名) 相続税 (1名) 市民税 (1名)
3. 税金はどんなことに	公共施設 (25名)

<p>使われていますか。 (複数回答可)</p>	<p>学校の建設や備品など (18名) 政治のこと (2名) 道路や橋の整備 (7名) 消防 (5名) 警察 (4名) 救急車 (1名) ごみ収集 (1名) 被災地復興 (6名)</p>	
<p>4. 税金はだれが払っていますか。 (複数回答可)</p>	<p>国民全員 (32名) お父さん・お母さん (2名)</p>	
<p>5. 税金は必要だと思いますか。</p>	<p>必要だと思う (31名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税金がないと、公共施設が建てられなくなり、生活が不便になるから (14名) ・国民が安全で豊かな生活を送るため (5名) ・道路や橋を作るのに必要だから (3名) ・税金がないと、すべてが民間になってしまい、困る人が出るから (3名)・教育にかかるお金が少なくて済むから (3名) ・消防や警察が必要な時に助かる (2名) ・お金がない人が、病気になった時など助けることができる (2名) ・震災復興に役立つから (2名) <hr/> <p>必要だと思わない (1名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のお金が少なくなる <hr/> <p>わからない (2名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民の生活の役に立っているとは思いますが、無駄に使われてしまうことがあるから 	<p>※ [事前]</p> <p>必要だと思う (13名)</p> <p>必要だと思わない (7名)</p> <p>わからない (14名)</p>
<p>6. 税金は生活に役立っていると思いますか。</p>	<p>[事後]</p> <p>思う (33名)</p> <p>思わない (0名)</p> <p>わからない (1名)</p>	<p>※ [事前]</p> <p>思う (10名)</p> <p>思わない (11名)</p> <p>わからない (13名)</p>

【考察】

事前調査では、「税金」という言葉を聞いたことはあるものの、その内容に対しては正しくない、あるいは漠然としたイメージしか持っていなかった児童がほとんどであるのに対して、学習後は、税金の種類や使われ方について、幅広い答えが出た。また、「税金を必要だと思う」理由についても、具体的に記述できており、公共施設や教育など、国民生活に欠かせないことに使われているという意識が高いということが分かる。中には、「税金が必要かどうかわからない」という理由として、「国民の生活の役に立っているとは思いますが、無駄に使われてしまうことがあるから」と答えた児童もいて、「税金のよりよい使い方」ということについても目を向けている児童がいることが分かった。

7. 研究の成果と今後の課題

【成果】

- 租税教室で、専門家の話を聞いたことが、児童の興味関心を引き出していた。また、ビデオの内容も、児童にとって分かりやすく、印象的であったため、児童の興味を喚起するのに効果的だった。
- 租税教室開催の時期を、社会科の「私たちの願いを実現する政治」の学習時期に合わせ、前時に公共施設について学習してから租税教室を行ったことにより、租税教室の内容について、児童の理解が深まった。また、歴史の学習は一通り終えている時期でもあり、租税の歴史などにも興味を示す児童が多かった。
- 学校の施設・設備や光熱費など、児童の生活に直接関わりがある事柄を取り上げたことで、実感をもって学習することができた。
- 一斉での学習→個人での課題解決学習という段階を踏んだことで、児童一人一人が税について関わり、理解を深めることができた。
- 新聞にまとめる活動では、個々の興味関心に合わせながら、取り組むことができた。また、「相手に伝える」という目的意識をもって、調べ学習やまとめる活動に取り組むことができていた。

【課題】

- 租税教室の税理士さんの他に、できれば市役所の方など公共施設の建設などの事業に直接かかわっている人の話を聞く機会を設けられれば、児童の学びがより深まったと感じた。
- 3学期の総合的な学習の時間の中で、「岩沼のこれからのまちづくりを考える」という活動を行った。その中で、市民の役に立つ施設の建設や商店街の町おこしなど様々な案を提示することができていたのだが、税について学んだことが必ずしも生かさ

れていたわけではなかった。社会の学習だけでなく、総合の学習やその他の教科の学習と関連させて指導計画を考えていくことで、より意識が高まっていくと考えられる。

- 事後のアンケートに「むだに使われてしまったら税金の意味がなくなってしまう」と書いた児童のように、「税金のよりよい使い方」というところまで目を向けて新聞に書いていた児童が少数いた。しかし、そのように深いところまで踏み込んで、自分の考えをもてていた児童は決して多くない。税金の種類や、使い方という知識だけでなく、税金のよりよい使い方や、税金について国民全体で考えるという姿勢を育んでいけるようにしていくことが大切だと思う。

